

「どなたもどうかお入り下さい」

～ <賢治への関心> それだけが条件です

宮澤賢治センター初代代表

望月 善次

岩手大学は、本年度の開学記念日に当たる六月一日（木）に平山健一学長の強い願いを込めて、「宮澤賢治センター」を発足させました。

改めて言うまでもなく、岩手大学は、賢治が卒業した盛岡高等農林学校をその前身の一つとしています。つまり、賢治の母校なのです。こうした縁もあり、今までも、賢治に関心を持つ人は少なくなかったのですが、そうした<賢治への関心>を結集すべく「宮澤賢治センター」を設立しました。現在のところ、所謂、学則に盛り込まれた組織ではなく、NPO 的組織であり、学内関係者だけでなく、広く地域・学外の方々にも参加していただいているところが特徴です。キャッチフレーズ的に言えば、「どなたもどうかお入りください。賢治に関心のあることだけが条件です。」(当分会費徴収はありません)ということになります。

賢治の時代に本部であった農学部附属農業教育資料館は、現在では重要文化財に指定されていますが、宮澤賢治センターが置かれたのは、その農業資料館に隣接する農学部緑りの「百年記念館」です。「百年記念館」には、賢治が卒業した盛岡高等農林を母体としている農学部の同窓会・北水会の事務所が置かれています。また、事務的連絡場所は、岩手大学地域連携推進センターに置いています(現在登録会員数 375 名)。

「多くの方々の賢治への関心を結集する」ことを目指していますから、具体的事業も、通常の会のようなタイトなものではなく、ゆるやかな運営を目指しています。本年度は「一、月例研究会 二、第一回全国宮澤賢治学生大会」を中心事業とし、その他は、会員有志を中心とした「自主企画」としています(現在月例のものでも学生の研究会や宮澤賢治記念短歌会が開かれています。新年度には「経埋ムベキ山」への登山企画も検討しています)皆さんの参加を歓迎致します。